

# 貨幣需要関数の推定について

～マネーを増やすとインフレーションになる？～

会計研究科 会計専門職専攻

准教授 ○山田一夫 やまだかずお

## キーワード

貨幣需要関数, 誤差修正モデル

## 研究概要

現在の日本経済の最大の問題はデフレーションであると言われている。デフレーションとは物価が持続的に下落することである。物価の変動を知るためには、貨幣の需要と供給の関係を解明する必要がある。本稿では、誤差修正モデルと呼ばれる新しい手法と標準型の貨幣需要関数の推定方法の比較を行っている。

図1は貨幣量（実質マネーサプライ）と国民所得（実質 GDP）の長期の関係を表したものである。明らかに比例関係が見取れる。しかし、貨幣の供給（マネーサプライ）を増やせば、景気（GDP）が良くなるという単純な関係ではなく、背後に貨幣市場が存在している。貨幣市場では、貨幣の需要と供給が等しくなる点で、利子率が決定される。貨幣需要関数は、GDP と利子率の関数と考えられている。1970年以降、以前は安定していた貨幣需要関数が不安定となった。

図2は、標準型の貨幣需要関数（増加率）を推定し、貨幣需要の増加率の実績値と推定値をプロットしたものである。貨幣需要の増加率を正しく推定することができていない。

図3は、誤差修正モデル型の貨幣需要関数（増加率）を推定し、貨幣需要の増加率の実績値と推定値をプロットしたものである。標準型の貨幣需要関数と比較して、増加率の推定の精度が向上していることがわかる。

## アピールポイント

マクロ経済学で伝統的に考えられている標準型の貨幣需要関数よりも、誤差修正モデル型の貨幣需要関数の方が推定の精度が高いため、貨幣需要の予測に役立つ。

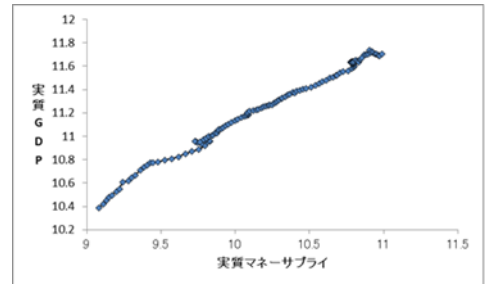


図1 貨幣と GDP の長期的関係

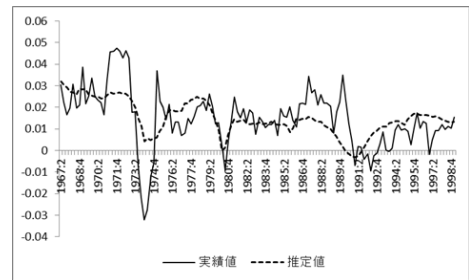


図2 標準的貨幣需要関数（増加率）の推定

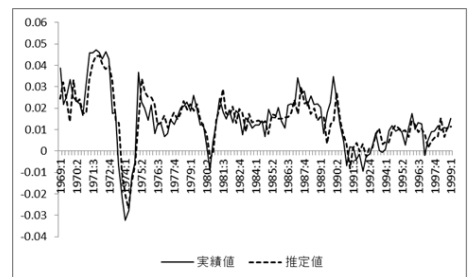


図3 誤差修正モデル型貨幣需要関数（増加率）の推定